
夜空に願いを込めて

wokagura

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夜空に願いを込めて

【Nコード】

N6850U

【作者名】

wokagura

【あらすじ】

七夕が近づいて、頭の片隅にあった約束を思い出してしまふ逞真と萌。どんなことを想っているのか、そしてなぜ二人は約束を信じ続けるのか・・・？

（前書き）

この話は『約束』本編の1年前の出来事です。

二人は勿論再会してなくて、それぞれの職業を堪能しているのが条件です。

星印で場面が変わりますのでそこらへんはご承知を。

これが初める作品だとしたら、一度『約束』を見てからがいいと思いますよ。

7月のある日、聖奈が逞真にこんなことを言い出した。

「ねえ、兄ちゃん。もうすぐ七夕だね。」

パソコンを打ちまくっている逞真は聖奈を見やった。

「それがどうした？」

「いや、今恋愛の雑誌読んでるんだけど、七夕のお伽話って切ない恋話だよなって。」

「・・・ふう・・・ん」

「それだけ!？」

「恋愛には興味がない。」

「あっそ。でも、話の内容とかなら知ってるでしょ？」

「恋に落ちた織姫と彦星が愛し合い過ぎて、離れることになって、七夕の夜にだけ再会できる。で、その再会できるところが天の川だってやつだろう?これくらいは知っている。」

「ぷっ、兄ちゃんが恋とか、愛し合うとか言ったら、なんか変な感じ。」

「お前が言わせたんだろうが。」

「はいはい、スミマセンでした!」

逞真は作業に戻った。その後も聖奈はつぶやき続けた。

「はぁ、いい話だよな。再会した時一体どんな話するのかな?運命を誓おうとかそういうロマンチックなことになるのかなあ?」

いままで気にもとめなかった聖奈の言葉だが、急に逞真は手を止

めた。

(運命を……誓う……)

逞真はあの約束を思い出してしまったのだろう。ずっと黙ったまま聖奈を見た。

「ん……ってうわ！なに、急に見つめたらビックリするでしょうが！！」

「……すまん。」

「急にどうしたのさ。まさか、私の言葉に反応してくれた??」

「別に。なんでもない、悪かったな、妄想に入りなおしてくれ。」

「……なんなんだよったくもっつ」

と、言いながらも聖奈はすぐに妄想に入っていた。逞真は深く考えていた。

(聖奈の言ったことが一理あるとしたら、俺たちの約束は七夕物語に似ているということだな。……彼女は……今頃何をしているのだろうか？約束なんて……忘れてしまったのだろうか？あの時の俺も馬鹿だった。次に逢うといっても、場所がわからないんじゃない、どうしようもできない。)

逞真は一つ溜息を吐き、再び作業に戻ったのだった。

★☆☆☆☆☆☆☆☆

ピアノ教室で、レッスンを終えた一人の生徒が呟いた。

「はぁ、もうすぐ七夕だ。何お願いしよう?？」

萌は振り向いた。

「そう言えば、七夕ね。」

「萌先生、七夕のお話ご存知です?」

「ええ。いい話よね。」

「はい! あぁ・・・一年に一度だけしか逢えないなんて・・・再会した時は嬉しいですよ、きっと。」

で、離れちゃうときになると、また約束するんですよ。必ず逢いに行くからね、って。」

「・・・え・・・?」

ふと、生徒の言葉が凄いに留めた萌。

「きゃー、興奮しちゃいますよぉ!!」

「そ、そうね・・・」

萌もまた、あの日の約束を思い出してしまった。

(駿君・・・)

萌は窓の外を見た。

（まだ、あそこにいるのかな。待ってて・・・くれるかな。どうか、約束を忘れないでいてほしいけど・・・。）

「先生、さようなら！」

生徒のあいさつに我に返る。

「はい、さようなら。」

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆
☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

今日は七夕。

学校の帰宅時、逞真は少し寄り道をした。

近くの大きな公園だ。そこは景色が良く、しかも天気良かったので気分転換でもしようと来たのだった。

今日は、七夕のせいかな、人が多かった。笹の木周辺に皆で群がって、短冊に願い事を書いている。

近くに行ってみると、

「あっ、駿Tだ。駿T!!」

と、自分のクラスの女子たちに声を掛けられた。皆浴衣姿だった。

「ああ、こんばんは。」

「こんばんは！先生も七夕だから来たんですか？」

「いや、たまたま通りかかったら、騒がしくて来てみたまでだ。」

「先生はお願い事書かなくていいんですか？とくですよ？」

「フッ、遠慮しておく。」

「えー、なんでー？？」

「あつ、きつとあれだよ。私たちの数学の成績が上がります様にか悪さをしません様にとかそういうことだから、生徒がいるところで書いちゃいけないんだよ。」

「あー、なるほど！」

「誤解なんだが・・・？」

「あ、聞こえてました？」

「聞こえないほうが可笑しいだろう。確かに成績は上がってほしいし、悪さしてもほしくないが、願い事にするものでもない。願う前に実践に移すべきだ。」

「はぁ・・・流石駿Tだよ。真面目すぎ・・・。」

すると、辺りが一気に騒がしくなった。

「え、なになに？どうしたの？？」

「あつ、天の川だ！天の川があるよ！！！」

「えっ、どこどこ？」

「あそこ！」

生徒たちの指差すほうを見ると・・・

「・・・あ・・・」

そこには綺麗な天の川が空を流れていた。対になる場所に、織姫

と彦星と思われる星が光っている。

それを見て、逞真はあることが脳裏に浮かんだ。微笑を浮かべると、風がサーツと髪を撫でていく・・・

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

ピアノの講演会を終え、萌は家に帰宅しようとした。

その時、周囲を歩いている人たちが一定の場所を指差して騒ぎ出した。その方向を見てみると・・・

「・・・綺麗・・・」

天の川が頭上を流れていた。その両側に織姫と彦星の星が光っている。

「巡り会えたのね・・・」

そのとき、自分の言葉であることを思った。風が萌の長い髪を揺らしていく・・・

★☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆☆

そして、逞真と萌は同時に想った。

—— 貴方が約束を覚えています様に……いつか、必ず再会で
きます様に……

夜空に願いを込めて……

二人は微笑んだ。

きっと、同じ空を見上げている……離れていても、同じことを
想ってる……

だから二人は、古い約束を信じ続けるのかもしれない……

(後書き)

初の短編でしたが、どうでしたか？

あ、今日七夕じゃない、ふと思いついて書いたので、変なところがあったりするかもしれませんが、ご勘弁を・・・。

これからもw o k a g u r aをよろしくお願いします☆

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6850u/>

夜空に願いを込めて

2011年11月13日17時53分発行